

女性指導者と男性指導者との関わり方による  
選手の取り組み意欲の違いに関する事例的考察  
長尾 眞美子 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)  
指導教員 仲宗根 森敦

キーワード：女性指導者，男性指導者，意欲，

### 1. 緒言

スポーツをするにあたって，どんなに強いチームでも，どんなに弱いチームでも，指導者は必要であろう。筆者自身，男性指導者，女性指導者，両方の指導者を経験し，男性指導者よりも女性指導者の方がいきいき伸び伸び部活動できているように感じた。そこで，本研究では，女性指導者と男性指導者とでは，関わり方の仕方が違う中で，女子部活動生は，どちらの指導者の方が，部活動に対するどのような影響を及ぼし，さらに具体的にどのような点が取り組み意欲を向上させるのかについて明らかにすることを目的とした。

### 2. 研究方法

本研究で，対象者にインタビュー調査を実施する。インタビューの形式は，こちらでおおまかにインタビュー内容を決めておき，回答者の答えによってさらに詳細をたずねていく簡易な質的調査法である。予め考えていた質問以外にも，対象者の返答次第でより細かく質問していった。筆者自身が部活動をするにあたって，女性指導者と男性指導者の違いや違和感を感じたこと，疑問に思ったことを質問項目に考えた。対象者 A，女子バスケットボール部 1 名，対象者 B，女子バレーボール部 1 名，対象者 C，女子ソフトボール部 1 名である。

### 3. 結果と考察

インタビュー結果から，対象者 A は，女子ソフトボールをしており，女性指導者は，ミスしたときに頭ごなしに叱るのではなく，ここがこうなっていたからミスをした。ここをこうしたらもっとよくなる。など丁寧に指導してくれたので，もっと上手になりたいという向上心が生まれ部活動に対する意欲が向上した。と答えた。結果から，対象者 A は，女性指導者の方が部活動に対する意欲が恒常したとみられた。対象者 B は，プレーに対する思いなど自分も考えていたことをすべて受け入れてくれ，伸び伸びと部活動でプレーすることができた。と答えた。という結果を得ることができた。結果から，対象者 B は男性指導者の方が部活動に対する意欲が向上した。対象者 C は，一人ひとりの得意なプレーを伸ばそうとしてくれたところや，練習前に少し早い体育館に来て選手とコミュニケ

ーションを取ってくれていた，と答えた。なので，結果から，対象者 C は男性指導者の方が部活動に対する意欲が向上したとみられた。これらのことより対象者ごとに異なった結果がみられた。

### 4. 結論

本研究は以下のことが明らかになった。

- ・ソフトボールをしている人にとって女性指導者は，ミスをした時に丁寧に指導してくれた。部活面以外のプライベートの話なども親身になって聞いてくれた。スッキリした気持ちで部活に取り組むことができた。
- ・バスケットボールとバレーボールをしている人にとって男性指導者は，練習前に少しはやく体育館に来て選手とコミュニケーションを取ってくれていた。叱った後の切り替えが早く，後の練習で引きずらないこと。
- ・ソフトボールをしている人にとって女性指導者は，叱った後の気持ちの切り換えが悪かった。
- ・バスケットボールとバレーボールをしている人にとって男性指導者は，叱った後のアフターケアがなかった。

対象者それぞれ男性指導者，女性指導者の関わり方による違いで部活動に対する意欲が異なるという結果が出た。今後の課題としては，被験者の人数を増やし，種目を増やし，年齢層も増やさなければならぬ。

### 引用・参考文献

- 朝岡正雄 (1984) 「スポーツ医学と健康シリーズ：女性とスポーツ」. オーム社：東京
- 新牧賢三郎・熊谷壽 (1998) 「楽しいクラスづくり リフレッシュ文庫 67, 教師が指導する“ライフスキル学習”」. 草思社：東京
- 亀井明子 (2004) 「知ってますか？ スクール・セクシュアル・ハラスメント一問一答」. 解放出版社：大阪
- 澤田秀三・南博文・秋田喜代美 (2001) 「心理学研究法入門：調査・実験から実施まで」. 一般財団法人放送大学教育振興会：東京
- 西林克彦・三浦香苗・村瀬嘉代子・近藤邦夫 “編” (2000) 「教員育成のためのテキストシリーズ 第3巻：学習指導の方法と技術」. 北樹出版：東京